

就活の準備は すべての大学生に必要なこと

——多くの就活生が抱える悩みについて、当社就活書の著者である坂本先生にお話をうかがいます。「売り手市場っていうけど、実際のところどうなの?」「だれでも内定をもらえるテクニクってあるの?」などの疑問について、ぶっちゃけて答えていただきたいと思います。

坂本 よろしくお願ひします。

——まず、先生のご紹介もかねて、ふだんの活動について教えてください。

坂本 いつもは、全国の大学を回り、キャリアセンター主催の就職ガイダンスで講師を務めています。先週は北海道へ、昨日は名古屋へ行ってきました。

——年間いくつくらいの講義をされているんですか?

坂本 ひとつの大学で何コマもやることがあるので、それも合わせると年間200コマくらいですね。大学だけではなく、自治体主催の就活講座をやることもあります。昨年は岡山市や加古川市主催の就活講座の講師をしました。

——講演が多い時期はいつごろですか?

坂本 いちばん多いのはやはり秋です。大学3年生向けの就活講座で、10〜11月が多いですね。ただ、いまは企業の採用活動も年中行われていて、インターンシップもあるので、年間通してキャリアセンターでの講義があります。とくに最近では、志願者を増やすために、学生の就職支援に力を入れている大学は増えていきますね。

——先生が講義をしているのはどのような大学ですか?

坂本 偏差値は関係なく、さまざまな大学で行っています。なぜなら、**有名大学だからといって就活がうまくいくとはかぎらない**からです。企業はいろんなタイプの学生を採用したいと考えます。つまり、アルバイトを頑張った学生、スポーツを頑張った学生、サークル活動を頑張った学生、資格取得を頑張った学生、語学を頑張った学生など、**それぞれのタイプのなかでの戦い**になるんです。私は東大生向けの講義も行っていますが、東大生だからかならず受かっているというわけでもありません。何社も落ちて落ち込んでしまう人もいます。

——**ということは、どんな大学の学生でもしっかり対策をしなきゃいけない？**

坂本 そうなんです。また、それと同じくらい重要な問題があります。それは、入社してかならずしも幸せになれるとはかぎらないということです。自己分析や企業研究によって企業と自分のマッチングを確認せずに、知名度で企業を選んで入社し、「失敗した」と後悔する人が、有名大学の学生にはとても多いのです。そういった大学では、自分に合った企業を探す方法の指導も求められていますね。

——**大学が変わると、指導の内容も変わるんですか？**

坂本 中堅レベルになると、そういった指導に加えて、志望企業の内定をとるための指導を大学からは依頼されます。そして、偏差値がそれほど高くはない大学になると、自分の大学から採用実績のない企業や、就職人気ランキング上位企業の内定をとるための指導を依頼されます。「あきらめなくても大丈夫。内定をとる方法があります」と、具体的なやり方を指導しています。

——**そういった方法を、書籍に書いていただいているわけですね。つまり、どの学生もしっかりと就活の準備はしなくてはいけないんですね。**

坂本 そうです。就活はすべての学生が準備をしないと失敗するリスクがあるということですね。

——**就職支援活動をはじめてからは、どれくらいたつんですか？**

坂本 今年で23年目になります。

——**はじめたきっかけはなんだったんですか？**

坂本 大学時代にさかのぼりますが、留学生の就職支援ボランティアをし、そのやりがいを感じたことがきっかけですね。私が指導した学生が企業に受かり、その人の親も一緒になって、とても喜んでくれたんです。就職支援は大きな喜びがつくりだせる仕事であり、その人の人生に大きな影響を与える仕事だなんて思っ
て、魅力を感じたんです。

――素敵なきっかけですね。

坂本 ただ、それはあくまで学生レベルによる指導でした。企業の見極め方とか、伝わる文章の書き方、他人の文章の直し方、プレゼンの指導の仕方など、プロとして教えるために必要な要素がそろっていませんでした。そこで、まずこの会社でこういう技能を身につけ、次はこう、次はこうと、人生計画を考えました。およそ2年ごとに転職していく計画を立て、それを実行し、最終的に独立したという形です。

――独立はおいくつのときに？

坂本 32歳で独立しました。ただし、就職支援の仕事は独立してからはじめたわけではなく、4つ目の企業ですでに携わってはいました。証券会社、広告会社、新聞社を経て教育業界に入り、自分で就活講座を立ち上げたのです。それが軌道にのって本を出版し、その後独立しました。過去の仕事がすべていまの仕事につながっています。

――いままで、何人くらいの就活生を教えてきたんですか？

坂本 およそ7万人を指導をしました。

――先生は講義をするときに、大切にされている考えはありますか？

坂本 その人の人生全体が幸せになるような就職支援をしたい、そう考えています。企業と人とのマッチングも考え、「内定＝ゴール」ではなく、「内定＝幸せの入り口」になるよう、心がけています。